

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	上下水道局			
				担当課	下水道計画課			
事業名 浸水対策事業				課長名	福永			
				施策番号 II - 1 - (4) - ④				
事業概要 近年、集中的な豪雨や都市化の進展に起因する浸水被害が増加しています。浸水被害を抑制するため、公共下水道の整備を進めると共に流域全体の浸水に対する安全度の向上を図ります。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()				
コスト	事業費	25年度当初予算額 1,900,000 千円	25年度執行額 3,342,579 千円	(事業費備考)	人件費	目安の金額 165,200 千円	課長 0.80 人 係長 2.70 人 職員 17.20 人	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題 平成23年度の雨水整備率は目標を達成することができました。平成24年度においても、当該年度の目標値に向けて、事業を進めている状況です。	見直し内容	事業費は平成23、24年度に比べ減少していますが、引き続き必要な雨水整備事業を計画的に進めています。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 浸水被害の抑制	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 公共下水道の整備(雨水整備)を進めるとともに、流域全体の貯留・浸透・保水能力の向上など総合的な治水対策の検討を行います。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 順調
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由 下水道整備を行うことで浸水被害の最小化を図っています。
	浸水被害の抑制	—	浸水被害の抑制	—	
	過去に大規模な浸水被害が発生した箇所において、10年確率降雨(53.1mm/h)に対応する整備を行うことにより、浸水被害が発生しない状態を目指します。 (最終目標と目標年度) 平成26年度	—		— %	
	(最終目標と目標年度)				

活動計画	どうやって目的を達成するか 過去に浸水した地区や未整備地区などの浸水の危険性の高い地区を優先的に整備するとともに、地形的に浸水を起こしやすいと想定される、山手の急勾配から平地地への変移箇所や現況断面が10年確率の計画断面よりも不足している区域などの整備を計画的に進めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由 年度目標を達成しており、順調に雨水整備率を上げました。
	雨水整備率	70 %	70.7 %	70.7 %	
	雨水管布設工事等を行うことにより、市内の浸水対策が進められているか表すものです。	70.3 %		100.0 %	
	(最終目標と目標年度)			%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点
	活動、成果の状況については、事業が予定通り進んでいるため、順調としました。 本事業は施策に対する有効性が高く、近年の集中豪雨を考えると、早急に行うことが必要だと考えており、目標達成に向け、着実な取り組みを進めていくことが適当だと考えます。 雨水整備は、浸水被害の根本的な解決策であり、効率的な方法だと考えます。また、整備箇所ごとの現場の状況に応じた最も経済的な方法を検討し、整備を行っています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要					担当局	上下水道局
					担当課	計画課
					課長名	谷
事業名	地震対策事業(水道施設)				施策番号	
					II - 1 - (4) - ⑤	
事業概要	大規模な地震が発生した場合においても、安全で安定的な給水を確保するため水道施設の耐震化を実施するものです。				<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
					()	
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.04 人
	635,487 千円	631,612 千円			4,610 千円	係長 0.10 人 職員 0.42 人

【Action】改善		
課題	H23年度の評価結果を受けての課題 順調に事業は進捗しており、今後も同様に進めていきます。	見直し内容 今後も計画通りに耐震化を進めて、安定給水の向上を図ります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	順調
	水道施設	大規模な地震が発生した場合においても安全で安定的な給水を確保するために水道施設の耐震化を図ります。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	耐震補強対象施設整備率	7.7 %	61.5 %	61.5 %	
	平成27年度年度までに耐震化を行う13施設について、耐震補強が進められているか表すものです。 (最終目標と目標年度) 平成27年度 13箇所耐震化	53.8 %		100.0 %	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 平成25年度は、配水池の耐震化については小森江、沼配水池の耐震設計業務を行います。また、浄水場の耐震化については、井手浦浄水場の沈澱池、及び穴生浄水場の浄水池の耐震設計業務を行い、本城浄水場の浄水池の一部の耐震化工事を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	耐震補強工事数	1 箇所	1 箇所	1 箇所	
	耐震補強工事を行う箇所数を表すものです。	6 箇所		100.0 %	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 水道施設の耐震化が計画通り進んでいるため、成果、活動とも順調であると考えます。
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点 耐震診断の結果による施工方法の見直しや、実施設計において新工法を採用するなど、経費削減を図ることによって経済性を向上させています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

		担当局	上下水道局	
		担当課	施設課	
		課長名	中島	
		施策番号		
		Ⅱ - 1 - (4) - ⑤		
事業名	地震対策事業(下水道施設)			
事業概要	大規模な地震が発生した場合においても、下水道の機能を最低限確保するために下水道施設の耐震化を実施するものです。			
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	課長 0.06 人
	530,000 千円	313,299 千円		係長 0.25 人
			目安の金額	職員 1.00 人
			10,690 千円	(人件費備考)
				()

【Action】改善				
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	平成24年度工事予定であった新町浄化センター汚泥処理棟の耐震補強工事は、同汚泥処理棟プラント設備の老朽化に伴う更新工事が発生し、耐震補強工事の実施が困難になったため、平成26年度に延期しました。その代替として、皇后崎浄化センター自家発電室の耐震補強工事を1年早め、平成24年度に耐震設計、平成25年度に耐震補強工事を行います。	見直し内容	平成25年度においても引き続き事業を計画的に進めます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	順調	
	下水道施設	大規模な地震が発生した場合においても、最低限有すべき下水道施設の機能を確保するために下水道施設の耐震化を図ります。	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	耐震補強対象施設整備率	30.8 %	61.5 %	61.5 %	最終目標に向けて計画通りに耐震補強が進んでいます。
	5浄化センターの管理棟、汚泥処理棟、自家発電棟の耐震補強が進められているか表すものです。 (最終目標と目標年度) 平成26年度 13箇所の耐震化	46.2 %		100.0 %	
	(最終目標と目標年度)				

活動計画	どうやって目的を達成するか	浄化センターの有人施設(管理棟、汚泥処理棟)や緊急用の非常用発電設備のある自家発電棟の耐震補強を計画どおり進めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	耐震補強工事数	2 箇所	2 箇所	2 箇所	皇后崎浄化センターの汚泥処理棟、自家発電室の耐震補強工事を発注しました。
	耐震補強工事を行う箇所数を表すもの。	2 箇所		100.0 %	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>計画通りに耐震補強工事が進んでいますので、成果、活動の状況とも順調としました。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果)の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>工法検討に当たっては、耐震計算を満足させることが最優先であり、経済性・効率性に対する高い効果を得ることは困難ですが、今後も検討を続けてまいります。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	上下水道局			
				担当課	海外事業課			
				課長名	中嶋			
事業名	上下水道技術の国際協力			施策番号				
				II - 3 - (4) - ②				
事業概要	アジアを中心とした国や地域(カンボジア、ベトナム国ハイフォン市、ミャンマー国マンダレー市、インドネシアなど)への職員派遣や海外からの研修員受入れにより、本市の浄水技術や漏水削減などの技術の移転、下水道の計画づくりや維持管理等に関する指導を行うことで、海外の技術者の育成を進め、世界の水環境改善に貢献します。併せて、国際技術協力を通じ、技術の継承や実務能力の向上など、本市職員の育成にも寄与します。				事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()			
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 1.60 人	(人件費備考)
		26,284 千円	42,310 千円			69,900 千円	係長 2.90 人 職員 3.00 人	

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	本市の提案により採択を受けたJICA草の根技術協力事業や自治体国際化協会(CLAIR)の受入研修に加え、JICAやKITAの依頼による受入研修などの国際協力を継続的に実施することにより、更なる現地の技術力向上への寄与が必要と考えています。	見直し内容	JICAや国の制度を活用するなどコスト削減を図りながら着実な事業実施に努め、開発途上国の技術向上を図ります。
----	-------------------	---	-------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	大変順調
	アジアを中心とする水環境の改善が必要な国や地域(カンボジアや友好都市であるベトナム国ハイフォン市、中国大連市、インドネシアなど)	本市が長年の事業運営の過程で培った技術やノウハウを活かした指導を行い、海外の技術者を育成します。また、技術継承や実務能力の向上など、本市職員の育成にも寄与します。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	国際技術協力でアジアの発展に貢献	-	開発途上国の技術向上を目指します。	-	世界各国から研修生を継続的に受け入れ、水道技術の向上を図っています。	
	国際技術協力を通じ、本市が有する技術やノウハウを輸出することによって、海外技術者の育成を図ります。 (最終目標と目標年度)	-		- %		
	(最終目標と目標年度)					
(最終目標と目標年度)						

活動計画	どうやって目的を達成するか	上下水道技術を海外の研修員に効率的・効果的に伝えるため、海外の上下水道事情や国際技術協用に精通した機関である(独)国際協力機構(JICA)、(財)北九州国際技術協力協会(KITA)などと連携して取り組みます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	海外からの研修員受入人数(水道)	45 人	80 人	75 人	海外の水環境改善が進められるよう、積極的に国際技術協力に取り組みました。
	本市の提案により採択を受けたJICA草の根技術協力事業及び自治体国際化協会(CLAIR)事業を活用した受入研修に加え、国際協力機構(JICA)や北九州国際技術協力協会(KITA)などの依頼により受け入れた研修員の人数です。	86 人		93.8 %	
	海外からの研修員受入人数(下水道)	270 人	200 人	277 人	
本市の提案により採択を受けたJICA草の根技術協力事業及び自治体国際化協会(CLAIR)事業を活用した受入研修に加え、国際協力機構(JICA)や北九州国際技術協力協会(KITA)などの依頼により受け入れた研修員の人数です。	407 人	138.5 %			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	受入研修をはじめとした国際協力を継続的に実施することにより、現地の技術力向上に寄与しています。活動については、予定どおり研修生を受け入れており、大変順調としました。成果については、研修生の受け入れを通じて開発途上国の技術力向上に繋がること、また本市のPR・イメージアップにも寄与することから、大変順調としました。
	【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	国際協力機構(JICA)の制度を積極的に活用することにより、本市のコスト削減を図っています。民間活力の導入について、日本において水道事業は地方自治体によって運営されており、そのノウハウは自治体にあります。したがって、民間の協力も必要ですが、実施主体として市が関わっていく必要があります。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	上下水道局			
				担当課	計画課			
事業名 配水管更新事業				課長名	谷			
				施策番号 Ⅲ - 1 - (3) - ①				
事業概要 老朽化した配水管を計画的に更新することにより、漏水、赤水、不出水の解消や管破損事故を防止し、安全で安定的な給水を確保します。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()				
コスト	事業費	25年度当初予算額 3,800,000 千円	25年度執行額 4,000,215 千円	(事業費備考)	人件費	目安の金額 296,125 千円	課長 1.00 人 係長 5.10 人 職員 31.15 人	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	順調に事業が進捗していますので、今後も同様に進めていきます。	見直し内容 平成25年度は、事業量を50kmから62kmに増やし、老朽化した配水管の早急な更新を進めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	順調
	老朽化した配水管	計画的に更新することにより、漏水、赤水、不出水の解消や管破損事故を防止し、安全で安定的な給水を確保します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	安全で安定的な給水の確保	-	安定給水の向上	-	
	40年以上経過した普通・高級鑄鉄製の配水管がない状態を目指します。 (最終目標と目標年度) 平成32年度	-		- %	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 年間62kmの配水管更新を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	配水管更新延長	57.5 km	62 km	56.2 km	
	計画とおりに配水管更新事業が進められているかを表すものです。	46.1 km		90.6 %	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>平成25年度の目標である配水管更新62kmに対し、工事発注延長は62.4km、また、56.2kmの配水管の更新を終えているため、活動、成果とも順調であると考えています。</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>実施設計において経済性等も考慮した最適な工法を採用しているため、これ以上の高い効果は得られないと考えています。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	上下水道局
				担当課	配水管理課
事業名 アクアフレッシュ事業(学校の直結式給水の推進)				課長名	津田
				施策番号 Ⅲ - 1 - (3) - ①	
事業概要	水槽式給水の小中学校等では、近年の児童、生徒数減による使用水量の減少や、休日に水を使用しないことなどにより、貯水槽内に水が滞留し、水のおいしさが軽減する状況にあります。そこで、上下水道局では市立小中学校等の直結式給水への切替えを推進するため、既存の給水管口径のまま直結式給水への切替えが可能な学校を対象に直結化の支援をしています。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ()
	コスト	25年度当初予算額 35,000 千円	25年度執行額 31,460 千円	(事業費備考)	

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	本事業は、教育委員会に対して技術的支援や助成金等の支援を行うものですが、震災発生後、学校の耐震化の優先度が高まったため、本事業の対象となる工事の予定が修正されることとなりました。	見直し内容 教育委員会において学校の耐震化を優先して工事計画の見直しに着手しました。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 市立小中学校等の生徒	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) よりおいしい水道水を飲むことができるようにすること	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	学校直結化率	53 %	74 %	70 %	計画74%に対して、25年度実績が70%となったため、「順調」としました。25年度での達成率は94.6%であるため順調な進捗状況です。
	市立小中学校の内、直結式給水を採用している学校の割合です。 (直結式給水の学校数/全学校数)	61 %		94.6 %	
	(最終目標と目標年度) 81%(平成27年度)				
(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか 学校の直結化に要する工事費の一部助成を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	学校直結化数	9 校	20 校	16 校	計画20校に対して、25年度実績が16校であったため、「順調」としました。昨年度より、高い達成率とすることができました。
	学校の直結化に要する工事費を助成した件数です。	12 校		80.0 %	
			%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 単年度の学校直結率、工事費の助成を行った件数はともに高い達成率であったため「順調」としました。単年度の学校直結化数の達成率は、学校の耐震化に予算がシフトしたことや、直結化が行われていない学校には施工上困難な箇所が残っている割合が多いことにより、目標を少し下回る実績となりました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点 本事業は、教育委員会、建築都市局等関係部局と連携して事業を進めるものであるため、関係部局と密に連携を図ることが必要だと考えています。これまで概ね順調な進捗状況であるため、より密に調整を行い確実に事業を進めていきます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要						担当局	上下水道局
						担当課	下水道計画課
事業名 合流式下水道改善事業						課長名	福永
						施策番号	
						Ⅲ - 1 - (3) - ③	
事業概要 合流式下水道で整備された地区は、大雨時に雨水が希釈された未処理下水の一部が川や海に流れでることがあります。放流先の汚濁負荷を分流式下水道並みに軽減するため、合流式下水道の改善に努め、良好な水環境をつくります。						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
							コスト 事業費

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	平成23年度の合流改善率は目標値を達成することができました。平成24年度においても、当該年度の目標値に向けて、事業を進めている状況です。	見直し内容	下水道法施行令で定められた期限(平成35年度)を見据え、事業費は平成24年度に比べ増加し、計画的に合流式下水道改善事業を進めています。

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	合流式下水道区域における汚濁負荷量	分流式下水道並みに軽減するため、分流式下水道区域の拡大や雨水滞水池の設置などを進め、良好な水環境を作ります。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由 合流式下水道の改善を進めることで、下水放流先の汚濁負荷を軽減し、良好な水環境の実現を図っています。
	良好な水環境の実現	-	合流式下水道の改善	-	
	公衆衛生上の安全確保のため合流区域において、未処理の生活排水が河川等に流入しない状態を目指します。 (最終目標と目標年度) 平成35年度	-		- %	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 浸水対策や改築更新に併せ一体的に取り組むことはもとより、河川整備等の他事業とも緊密な連携を図りながら、合流式下水道の改善を進めます。	活動の状況 活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由 年度目標を達成しており、順調に下水道の合流改善を行いました。
	合流改善率	26.1 %	31.8 %	31.8 %	
	雨水整備による分流化及び雨水滞水池の設置を行っていくことで、合流式下水道の改善を進めることができます。	30.7 %		100.0 %	
				%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動、成果の状況については、事業が予定通り進んでいるため、順調としました。本事業の整備を推進することにより、着実に合流式下水道の改善が進み、公共用水域の汚濁負荷削減が図られています。今後も計画的に実施することが適当だと考えます。
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	浸水対策や改築更新と併せ、一体的に取り組むなど、効率性を高めています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	上下水道局	
				担当課	浄水課	
				課長名	菊池	
事業名	小水力発電設備設置事業			施策番号		
				V - 1 - (4) - ②		
事業概要	水道施設における再生可能エネルギーを有効に利用するため、小水力発電の整備推進を図るものです。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人員費	目安の金額	課長 0.01 人
	60,000 千円	6,720 千円			1,340 千円	係長 0.01 人 職員 0.15 人

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	上下水道局では、既に20年前から再生可能エネルギーを有効利用するために水力発電の導入に取り組んでいます。しかし、近年の再生可能エネルギーに対する関心が高まっており、一層の有効利用を目指すものです。	見直し内容 (25年度からの事業であるため未記入)

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	順調
	水道施設	再生可能エネルギーの有効利用を図ります。		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	再生可能エネルギーの有効利用	-	再生可能エネルギー有効利用 推進	-	計画通りに工事の発注をおこなっていますので、再生可能エネルギーの有効利用を推進していると考えます。
	水道施設における再生可能エネルギーの有効利用を目指します。	-		- %	
	(最終目標と目標年度) 小水力発電設備新設2箇所(平成27年度)				
(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか	平成25年度は新たな小水力発電の導入に加えて、既設水力発電の更新に向けた検討をおこないます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	新たな小水力発電の導入	-	1 箇所	1 箇所	計画通りに工事を発注でき、また、更新検討業務も進めました。
	新たな小水力発電を建設します。	-		100.0 %	
	既設水力発電の更新	-	1 箇所	1 箇所	
既設水力発電の更新に向けた検討をおこないます。	-	100.0 %			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>新たな小水力発電設備の工事に着手できたので、成果、活動ともに順調であると考えます。また、再生可能エネルギーに関する国の制度が毎年のように変わるので、常に制度の動向を確認し、随時関係省庁と協議をおこないながら事業を推進していきます。</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>水運用の形態の変化は発電量に大きな影響を及ぼし事業の収支悪化の原因となります。水力発電導入に際しては水運用形態の将来像を見極めながら、慎重に検討を進めてく必要があります。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	上下水道局			
				担当課	施設課			
				課長名	中島			
事業名	下水道資源の有効利用			施策番号				
				VI - 3 - (3) - ④				
事業概要	下水汚泥のバイオマスエネルギーとしての燃料化やさまざまな資源としての有効利用、また処理水の再利用による循環利用などを行います。			<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()				
				事業手法 ()				
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額	課長	1.00 人
		1,907,231 千円	1,532,644 千円			127,275 千円	係長	2.33 人 職員 12.33 人

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	下水汚泥の再資源化については、平成27年度供用開始予定の燃料化設備稼働までは、現在の有効活用方法に変更はありません。下水処理水有効利用については、現在のところ目標到達しており、現状の有効利用を確実に実行していこうと考えています。	見直し内容 平成25年度目標達成のため、汚泥の有効活用に努めるのと、処理水の再利用率増加するように努めていきます。事業費などについても現状維持としています。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	順調
	下水道資源	下水汚泥のバイオマスエネルギーとしての燃料化やさまざまな資源としての有効利用、また処理水の再利用による循環利用などを一層進めます。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	下水汚泥の再資源化率	92.4 %	95 %	92.2 %	下水汚泥については、再資源化率の目標値に近い数値を達成しており、セメント原料化及び一般ごみとの混合焼却により有効活用することができました。
	浄化センターで発生する下水汚泥をセメント原料化や一般ごみとの混合焼却によるごみ発電の燃料として再利用することで再資源化を行った割合。 (最終目標と目標年度) 98%(平成28年度)	92.5 %		97.1 %	
	下水処理水有効利用率	7.4 %	7.1 %	5.3 %	
浄化センターで処理した水を場内の雑用水や修景用水、民間工場等の用水として再利用した割合。 (最終目標と目標年度) 10%(平成32年度)	7 %	74.6 %			

活動計画	どうやって目的を達成するか	現在の下水汚泥処理方法以外に、更なる再資源化に向け汚泥燃料化施設建設工事を施工中です。また下水処理水の有効利用は、更なる利用率の向上のため、現状以外の利用方法の検討を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	更なる再資源化へ向けての検討	燃料化事業の要求水準等の検討	燃料化施設建設工事の進捗管理を行う	燃料化施設建設工事の進捗管理を実施	汚泥燃料化施設の平成27年度供用開始に向けて施工管理を行いました。また、処理水の利用途については、引き続き検討を進めていくことから、順調としました。
	浄化センターで発生する下水汚泥の更なる再資源化として汚泥燃料化設備を平成27年度供用開始に向けて施工中です。燃料化設備により、火力発電所などの石炭代替燃料となりCO2排出削減効果があります。	燃料化事業の基本協定を締結		— %	
	処理水の有効利用についての検討	—	—	燃料化施設等での利用を検討	
現状の利用形態だけでは、頭打ちのためその他の利用用途を検討する必要があります。	—	— %			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 下水汚泥については、セメント原料化および一般ごみとの混合焼却という有効活用できる処理方法が確立されています。再資源化率の目標値は下回っていますが、下水汚泥燃料化が実施されることで再資源化率の向上が期待されます。今後ともできる限り有効活用できるよう努めていきます。 下水処理水については、再利用率が目標値を下回っていますが、一定量の再利用を実施することができました。今後、より再利用率の増加ができるよう努めていきます。
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点 下水汚泥の処理については、経済性や処理の安定性を考慮し、より温室効果ガス削減効果が高い燃料化などへ変更してまいります。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	上下水道局			
				担当課	海外事業課			
				課長名	中嶋			
事業名	上下水道技術の国際協力			施策番号				
				VII - 1 - (3) - ②				
事業概要	アジアを中心とした国や地域(カンボジア、ベトナム国ハイフォン市、ミャンマー国マンダレー市、インドネシアなど)への職員派遣や海外からの研修員受入れにより、本市の浄水技術や漏水削減などの技術の移転、下水道の計画づくりや維持管理等に関する指導を行うことで、海外の技術者の育成を進め、世界の水環境改善に貢献します。併せて、国際技術協力を通じ、技術の継承や実務能力の向上など、本市職員の育成にも寄与します。				事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()			
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額	課長 1.60 人	(人件費備考)
		26,284 千円	42,310 千円			69,900 千円	係長 2.90 人 職員 3.00 人	

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	本市の提案により採択を受けたJICA草の根技術協力事業や自治体国際化協会(CLAIR)の受入研修に加え、JICAやKITAの依頼による受入研修などの国際協力を継続的に実施することにより、更なる現地の技術力向上への寄与が必要と考えています。	見直し内容 JICAや国の制度を活用するなどコスト削減を図りながら着実な事業実施に努め、開発途上国の技術向上を図ります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	大変順調
	アジアを中心とする水環境の改善が必要な国や地域(カンボジアや友好都市であるベトナム国ハイフォン市、中国大連市、インドネシアなど)	本市が長年の事業運営の過程で培った技術やノウハウを活かした指導を行い、海外の技術者を育成します。また、技術継承や実務能力の向上など、本市職員の育成にも寄与します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	国際技術協力でアジアの発展に貢献	-	開発途上国の技術向上を目指します。	-	
	国際技術協力を通じ、本市が有する技術やノウハウを輸出することによって、海外技術者の育成を図ります。 (最終目標と目標年度)	-		- %	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	上下水道技術を海外の研修員に効率的・効果的に伝えるため、海外の上下水道事情や国際技術協力を精通した機関である(独)国際協力機構(JICA)、(財)北九州国際技術協力協会(KITA)などと連携して取り組みます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	海外からの研修員受入人数(上水)	45 人	80 人	75 人	
	本市の提案により採択を受けたJICA草の根技術協力事業及び自治体国際化協会(CLAIR)事業を活用した受入研修に加え、国際協力機構(JICA)や北九州国際技術協力協会(KITA)などの依頼により受け入れた研修員の人数です。	86 人		93.8 %	
	海外からの研修員受入人数(下水)	270 人	200 人	277 人	
本市の提案により採択を受けたJICA草の根技術協力事業及び自治体国際化協会(CLAIR)事業を活用した受入研修に加え、国際協力機構(JICA)や北九州国際技術協力協会(KITA)などの依頼により受け入れた研修員の人数です。	407 人	138.5 %		海外の水環境改善が進められるよう、積極的に国際技術協力に取り組みました。	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>受入研修をはじめとした国際協力を継続的に実施することにより、現地の技術力向上に寄与しています。活動については、予定どおり研修生を受け入れており、大変順調としました。成果については、研修生の受け入れを通じて開発途上国の技術力向上に繋がること、また本市のPR・イメージアップにも寄与することから、大変順調としました。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>国際協力機構(JICA)の制度を積極的に活用することにより、本市のコスト削減を図っています。民間活力の導入について、日本において水道事業は地方自治体によって運営されており、そのノウハウは自治体にあります。したがって、民間の協力も必要ですが、実施主体として市が関わっていく必要があります。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	海外事業課
課長名	中嶋
施策番号	VII - 1 - (3) - ②
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	(人件費備考)

事業概要				
事業名	海外水ビジネスの推進			
事業概要	海外水ビジネスは、2025年には、上下水道分野など合わせて約87兆円規模の市場に成長すると見込まれており、国の日本再興戦略においても、アジアを中心とした水インフラ分野の海外展開が位置づけられています。このような中で、「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を軸に、官民がそれぞれ有する技術力やノウハウを結集し、計画づくりから設計、建設、維持管理、事業運営までを含む海外の水ビジネス案件の受注を目指します。併せて、「ウォータープラザ北九州」を中核施設とした水ビジネスの国際戦略拠点づくりを進めます。			
コスト	25年度当初予算額 120,454 千円	25年度執行額 48,262 千円	(事業費備考)	人件費
				目金の金額 課長 1.40 人 係長 2.10 人 職員 3.00 人 59,600 千円

【Action】改善		
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	ビジネス対象国であるカンボジアやベトナム・ハイフォン市、インドネシアで、案件形成活動を行い、着実に事業展開を行ってきました。その結果、平成25年度は上下水道併せて7件のビジネス案件を受注するなど、徐々に成果が現れていますが、更なる案件獲得に向け、積極的な活動が必要であると考えます。
見直し内容	北九州市海外水ビジネス推進協議会とより一層、緊密に連携し、案件形成・獲得を目指します。	

【Plan】計画 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	大変順調
	カンボジア、ベトナム・ハイフォン市、中国・大連市、インドネシアを中心とする対象国	民間企業が有する高い技術力や資金力と自治体が有する事業運営ノウハウや信用力を結集し、海外の上下水道ビジネス案件の受注を図ります。	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	

代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	上水道に関する水ビジネス案件の受注	アジアを中心とした国や地域を対象に、上水道に関するビジネス案件を受注します。	9,095 千円	単年度目標設定なし	19,464 千円
(最終目標と目標年度)		21,602 千円		- %	
下水道に関する水ビジネス案件の受注	アジアを中心とした国や地域を対象に、国際戦略拠点を活用しながら、下水道に関するビジネス案件を受注します。	-	単年度目標設定なし	909 千円	
	(最終目標と目標年度)	3,157 千円		- %	

活動計画	活動の状況	大変順調
どうやって目的を達成するか 「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を軸として、国際技術協力により緊密な人的ネットワークを築いているカンボジア、ベトナム、中国、インドネシアを当面の対象として、水ビジネスを展開します。	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	

活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	海外水ビジネスの推進	「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を軸に、技術・製品の具体的な売り込みや各種展示会への出展、広報活動など、セールスプロモーション活動を進めます。	-	単年度目標設定なし	-
国際戦略拠点の効果的な活用に向けた活動		-	単年度目標設定なし	- %	
平成27年度からの活用に向け、関係課と緊密に連携しながら、具体的な活用策や管理運営体制の検討などを進めます。		-		- %	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	北九州市海外水ビジネス推進協議会を軸にセールスプロモーションを行うことで、ビジネス対象国であるカンボジアやベトナム・ハイフォン、インドネシアで、7件のビジネス案件受注に繋がっており、官民が連携し、それぞれの強みを活かして水ビジネスに取り組むことは、有効であると評価しています。また、水ビジネスの国際戦略拠点の開設については、平成27年の供用開始に向け、当初予定通り、工事に着手しました。
	【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	北九州市海外水ビジネス推進協議会と連携し、事業に取り組むことで、情報交換・情報共有を図っており、効率的な運営を行っています。上下水道分野の管理運営ノウハウは、自治体が有していることから、今後も官民連携しながら事業に取り組んでいきます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	海外事業課
課長名	中嶋
施策番号	
VII - 2 - (1) - ①	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	海外水ビジネスの推進				
	事業概要 海外水ビジネスは、2025年には、上下水道分野など合わせて約87兆円規模の市場に成長すると見込まれており、国の新成長戦略においても、アジアを中心とした水インフラ分野の海外展開が位置づけられています。このような中で、「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を軸に、官民がそれぞれ有する技術力やノウハウを結集し、計画づくりから設計、建設、維持管理、事業運営までを含む海外の水ビジネス案件の受注を目指します。併せて、「ウォータープラザ北九州」を中核施設とした水ビジネスの国際戦略拠点づくりを進めます。				
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額
	120,454 千円	48,262 千円		59,600 千円	課長 1.40 人 係長 2.10 人 職員 3.00 人

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	ビジネス対象国であるカンボジアやベトナム・ハイフォン市、インドネシアで、案件形成活動を行い、着実に事業展開を行ってきました。その結果、平成25年度は上下水道併せて7件のビジネス案件を受注するなど、徐々に成果が現れていますが、更なる案件獲得に向け、積極的な活動が必要であると考えます。	見直し内容 北九州市海外水ビジネス推進協議会とより一層、緊密に連携し、案件形成・獲得を目指します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	大変順調
	カンボジア、ベトナム・ハイフォン市、中国・大連市、インドネシアを中心とする対象国	民間企業が有する高い技術力や資金力と自治体が有する事業運営ノウハウや信用力を結集し、海外の上下水道ビジネス案件の受注を図ります。		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	上水道に関する水ビジネス案件の受注	9,095 千円	単年度目標設定なし	19,464 千円	成果の状況は以下のとおりです。 ・ハイフォン市U-BCF整備事業(H25.5) ・スラバヤ市における低炭素都市計画策定のための技術協力(H25.6) ・ブンベン市におけるJCM案件形成可能性支援事業(H25.7)
	アジアを中心とした国や地域を対象に、上水道に関するビジネス案件を受注します。 (最終目標と目標年度)	21,602 千円		- %	
	下水道に関する水ビジネス案件の受注	-	単年度目標設定なし	909 千円	・コンボンチャム及びバッタンバン上水道拡張計画(H25.8) ・カンボジア対象本邦下水道研修開催支援業務(H25.10) ・ベトナム国地方上水道セクター情報収集・確認調査(H25.12) ・ジャカルタ特別州下水道整備事業に係る補完調査(H26.2)
アジアを中心とした国や地域を対象に、国際戦略拠点を活用しながら、下水道に関するビジネス案件を受注します。 (最終目標と目標年度)	3,157 千円		- %		

活動計画	どうやって目的を達成するか	「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を軸として、国際技術協力により緊密な人的ネットワークを築いているカンボジア、ベトナム、中国、インドネシアを当面の対象として、水ビジネスを展開します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	海外水ビジネスの推進	-	単年度目標設定なし	-	成果実績は下記のとおりです。 ・VIET WATERへの参加(H25.10) ・北九州市・大連市水ビジネス意見交換会の開催(H25.11) ・カンボジア水道セミナーへの参加(H25.12)
	「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を軸に、技術・製品の具体的な売り込みや各種展示会への出展、広報活動など、セールスプロモーション活動を進めます。	-		- %	
	国際戦略拠点の効果的な活用に向けた活動	-	単年度目標設定なし	-	・北九州・ベトナム水ビジネス意見交換会の開催(H25.12) ・国際戦略拠点について平成27年度の供用開始に向け、予定通り工事開始
平成27年度からの活用に向け、関係課と緊密に連携しながら、具体的な活用策や管理運営体制の検討を進めます。	-		- %		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>北九州市海外水ビジネス推進協議会を軸にセールスプロモーションを行うことで、ビジネス対象国であるカンボジアやベトナム・ハイフォン、インドネシアで、7件のビジネス案件受注に繋がっており、官民が連携し、それぞれの強みを活かして水ビジネスに取り組むことは、有効であると評価しています。 また、水ビジネスの国際戦略拠点の開設については、平成27年度の供用開始に向け、当初予定通り、工事に着手しました。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果)の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>北九州市海外水ビジネス推進協議会と連携し、事業に取り組むことで、情報交換・情報共有を図っており、効率的な運営を行っています。上下水道分野の管理運営ノウハウは、自治体が有していることから、今後も官民連携しながら事業に取り組んでいきます。</p>